

## 宝永二年十二月五日(1706/1/19)の出羽(羽前)地震について

佐々木 淳\*(石巻専修大学)

### § 1. はじめに

宝永二年十二月五日(1706/1/19)の出羽(羽前)地震の規模・被害等については、管見の限り『新編日本被害地震総覧』(1987)への掲載が初見である。ここにおいては、「湯殿山付近のきわめてローカルな小被害地震」と評価されている。その後、この地震についての評価については若干の見直しがあり、秋田・弘前・盛岡・山形で有感であることから、規模及び震源の見直しが行われた([https://www.hizumi.bosai.go.jp/pdf/report/H24/H24\\_3.6.2.pdf](https://www.hizumi.bosai.go.jp/pdf/report/H24/H24_3.6.2.pdf))。本報告では、この地震の史料について可能な限り、原史料に基づいて更なる検討を行うものである。なお、本稿では原史料の引用部分はゴシック体で表記している。

### § 2. 再検討の史料

この地震の史料は、『新収日本地震史料 第三卷(1983)』(以下A)に10点、『日本の歴史地震史料 拾遺 二(2002)』(以下B)及び『日本の歴史地震史料 拾遺 五ノ上(2012)』(以下C)に各1点、合計12点が収録されている。このうち、地震にかかる被害を伝えているものは、Aに①[政府万留書]、②[西野伊藤氏記録]、③[秦善左衛門日記手控]の3点、Bに④[宝永二乙酉年日記 下巻]の1点、計4点である。

以下で上記の被害の記載がある史料を検討し、本地震の評価について再検討を試みる。なお、Cの採録対象とされている史料に『平沢通有日記』(秋田市歴史叢書1 平沢通有日記一 2007)という秋田藩家臣の日記がある。この地震について日記原本には記載があるが、Cには採録されていない。その内容は次のとおりである。参考までに紹介しておく。

同五日 雪降戾刻地震、暫不止 卯刻退出

### § 3. 村山地域の被害記録がある史料の検討

前述の被害記録のある史料の内①・②については、庄内地方の記録であり、③と④は村山地方の史料である。そして②は伝聞での記録であることから、ここでの検討対象からは外すこととする。

まず、③の史料から検討してみたい。

昨夜地震二而 土蔵十三・家四五軒潰候由

ここでは、昨夜(宝永二年十二月五日)に土蔵が13、家が4・5軒潰れたと言う被害があった事が記載されている。場所の記載はないが、上山藩領内ではあろう。上山藩の石高は3万石で、この時期は、上郷(城付領現上市市)17,445石余、中郷2,500石余、下郷10,054石余に分かれ、中郷は現在の現山形市西部の一部、下郷は現寒河江市及び河北町の一部であった。

今回、『上市市史編集資料4 秦善左衛門日記手控』(上市市1973)を確認したところ、同書によれば、元の名称は「元禄十丑より正徳三巳迄拾七年書抜 六」というものであり、郡方日記のような藩庁日記から書抜いたものと推定されている。すなわち、作成者が必要と判断した事項を藩の記録から書抜いたものである。このような史料の性質からすれば、場所は特定できないものの上山藩内において土蔵・家が潰れたという被害記録は信頼できると考えられる。

次にBの④について検討してみたい。今回、国文学研究資料館の原史料(宝幢寺文書)を確認した。

五日(中略)

夜中五つ時分地震、舟町二而、長崎村二而  
土蔵并居宅”七十四五軒(後筆)”破候由

舟町は、現山形市船町で山形藩領(堀田氏)、長崎村は、現中山町の中心部を含む地域で、この時期は幕領であった。いずれも、最上川舟運の重要な河岸であった。そこで土蔵と居宅と合わせて七十四五軒が壊れたという記述については、本史料が、宝幢寺の寺務日記である事から、意図的な虚偽はないと考えられ、さらに後筆で「七十四五軒」が書き足されていることは、後日、被害規模がわかり、書き足したという可能性が高く、この史料の記述も否定しづらいと考えられる。

以上、村山地域の被害記載史料2点を検討したが、被害についての記載内容を否定する材料は見つからず、実際に住家、土蔵が潰れた被害があったと考えられる。この地震による被害は、湯殿山付近よりも村山地域の方が、被害が大きい可能性がある。

### § 4. 庄内地域の被害記録がある史料について

①は、戦前の郷土史家が採集したものである。今回、その原史料を採集元の酒田市光丘文庫で撮影してきた。元々は、家老の水野家に伝わった御用日記で、嘉永年間に庄内藩の修史事業で作られた写しである。原史料と照合した結果、細かい部分を除いても、異同がある。湯殿山付近の村々の被害については、大きな異同はなかったが、鶴岡城内において「材木小屋が潰れたので後日普請奉行から報告がある」という記載があり、庄内藩内において櫛引方面以外でも建物に被害がなかったわけではない。

### § 5. おわりに

以上の検討から、この地震の被害については決して湯殿山付近に限定されるものではなく、鶴岡城内、村山地域においても被害があり、建物の被害については村山地域の方が大きい可能性が高いと考えられる。